

第6期科学技術基本計画を見据えた課題・検討事項（たたき台）

基礎基盤研究部会 研究基盤整備・高度化委員会では、我が国の研究力向上に向けて、研究基盤の整備・高度化に関する議論を行ってきた（新共用全国連絡協議会幹事校や技術職員有志の会からのヒアリングも実施）。

今後、第6期科学技術基本計画を見据え、以下の点を踏まえ検討を深める必要がある。

1. 先端研究施設・設備・機器の整備・共用

<全体像の整理>

- 各研究施設・設備の共用割合や共用対象に応じた議論
- 国内の共用施設・設備を一覧できる環境の整備
（データベース技術の活用等。プロジェクト毎での共用の案内は非効率）

<国としての戦略的な整備> ※共用 PF、数億～数十億円規模の最先端研究施設・設備

- 共用プラットフォームの施設が有する先端機器群、支援スタッフ及びノウハウの維持
- イノベーション・システムの一翼を担う存在としての位置づけ
（共用・開発・研究サイクルの活性化によるサステナブルな共用モデルの構築等）
- 日本の科学技術の効率的・効果的な発展の観点から、相当程度の共用が望まれる施設・設備の洗い出し
- それぞれの分野で伸ばすべき事項の検討（国際競争力等の観点）
- 一定以上の国費を投資した研究施設・設備に対する一定程度の共用原則化
- シンプルな利用手続き及びリーズナブルな価格設定

<各機関の組織としての整備> ※新共用、数百万～数億円規模の研究設備・機器

- 研究室ごとの機器の購入・管理から、研究組織全体での設備の運用へ
＝「ラボから組織へ」。機器・人材・資金・情報の集約。
- 大学・法人間での広域的な連携の促進
- 各機関の好事例や課題の共有・定量化
- 大学・法人の経営陣への啓発
- 機器の共用に取り組む研究者や組織へのインセンティブの在り方

<人材育成>

- 研究基盤の整備・共用の要である「技術職員」の役割・重要性の見える化
- 技術職員の組織化、ステップアップの促進
－能力に応じた評価体系の構築、キャリアパス（職階等）の明確化・多様化
- 人的交流の促進（技術力向上や支援の幅の拡大が期待）
- 持続的な人材育成・確保（機関の枠を超えた取り組みを含む）

<その他>

- 利用者の責務（成果の出版や利用に対する謝辞等）の明確化、
ORCID(Open Researcher and Contributor ID)の活用等

2. 研究機器・共通基盤技術の開発

<総論>

- ユーザーのニーズ・意見を反映できる場の構築
- 開発が必要な機器の整理と国としての戦略的な開発の推進
- グローバル社会を積極的に牽引する施策（プラットフォーム、データベース構築、標準化等）の検討

<計測・測定及び解析におけるデータの利活用>

- データ駆動科学時代の到来を見据えたデータ利活用による計測・測定の質的向上、組織間の垣根を越える知のプラットフォームの整備
- 計測測定技術のクラウド化・バーチャル化に関する技術開発
- 共用の拡大に対応したデータ解析環境の充実（機器のユーザーインターフェースやデータフォーマットの統一、データストレージの充実等）